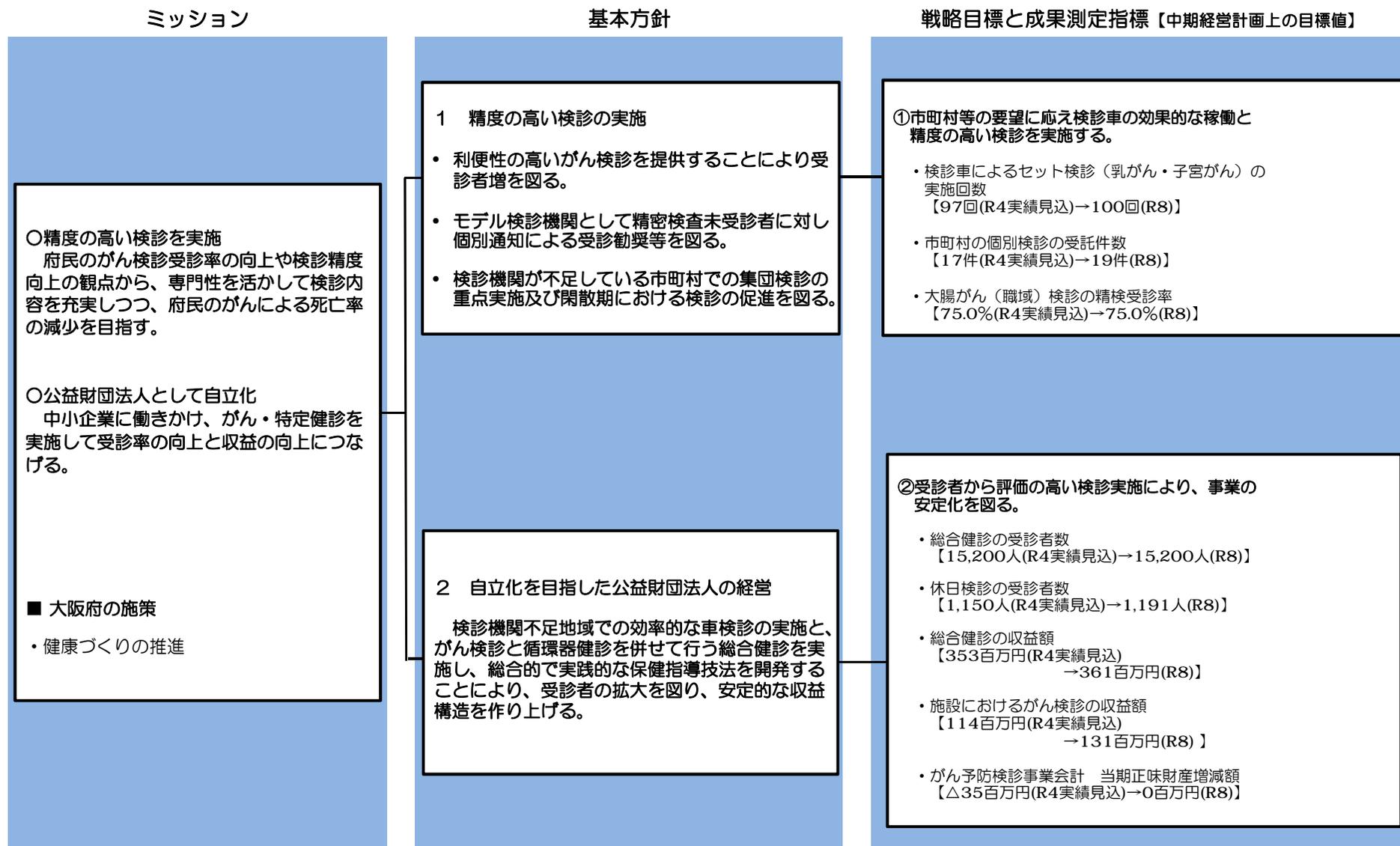


法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成（所管課）	健康づくり課

## ○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

○ 令和4年度の経営目標達成状況及び令和5年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R5 目標値	最終年度 目標値	
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の受診者数		人	35	12,868	14,220	[15,200]	15,200	35	15,200	15,200	・R4目標は、大規模団体検診を受託できたことなどにより、実績見込みが大幅に上回った。R5年度は大規模団体検診の受託が見込まれるため、収支改善を見込むためにも、R4見込値と同程度である15,200人を目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、経営上の位置付け	<p>○当財団は、令和4年度をスタートとして第3期中期経営計画を策定し、最重点とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約42%(令和4年度決算見込・収益の内最大)を占めており、第3期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。</p> <p>○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。</p>											
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	<p>○受診者数の多い大規模団体が毎年入札を実施しているが、新型コロナウイルスの影響でこれまで入札に参加していなかった検診機関が新たに参加しており、入札でいきなり低価格での札を入れたため、落札できないケースがあった。また、年々単価が低下している低価格での入札は経営に悪影響を及ぼすため、公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく。</p> <p>○収益確保のため、検診料金の改定を行うとともに、受診枠の拡大、受診受付人数の工夫及び土曜検診の充実などを図り、収益の確保へ向けて最大の努力を図る。</p> <p>○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを手作業処理しており、業務の効率化を図る必要がある。</p> <p>○施設構造が人間ドックのような検査項目の多い健診に対応しておらず、受診者が多くなると各所において待ち時間が発生するため、30分単位での受診者枠を設けきめ細やかな対応を行い、効率良く受診できるように改善した。</p>											
活動方針	<p>○第3期中期経営計画において、 〔事業方針〕 大阪府のがん死亡率が高く全国で最低レベルにある中、大阪がん循環器病予防センター(以下「当センター」という。)は府民のがん検診受診率や精度管理の向上に寄与しがんの早期発見、早期治療につなげるため、これまでに培ってきた専門性を活かし、受診者ニーズに対応したサービスの充実を図るとともに、収支構造の改善に取り組む。を掲げている。</p>											
	<p>・検診料金の改定を行う。</p> <p>・大規模団体検診、特に大阪市職員検診の受託を目指す。</p> <p>・トップセールスをはじめ営業活動の強化による新たな団体の獲得を図る。</p> <p>・午後検診は週3日。1日5人の枠を確保し、胃・大腸・肺がんの受診枠と乳・子宮がんの受診枠の拡大と併せて、午後検診を行うことで午前の総合健診の枠を確保し、効果的な総合健診の実施を図る。</p> <p>・大阪市民等をターゲットとした効果的な情報提供をホームページ上で実施するとともに、受診動員やWEB予約受付の検討など利便性の向上に取り組む。</p>											

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R5 目標値	最終年度 目標値		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。	検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	10	96	96	[97]	97	10	97	100	検診車の台数が限られている中、現状では検診日を増加させることは困難である。その中でも、R4年度見込値と同程度である中期経営計画の目標値の97回を目指す。	・市町村が検診計画を作成する前に、実施可能であることのPRを行う。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施することにより、受診者の増加を図る。
	市町村の個別検診の受託件数		市町村	10	17	17	[17]	18	10	18	19	現在契約している検診機関があり委託先を変更してもらうことは非常に困難である。その中でも、R4年度見込値と同程度である中期経営計画の目標値の18件を目指す。	・個別検診の意向のある市町村に対し、積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)		%	10	75.0	75.0	[75.0]	75.0	10	75.0	75.0	精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る目標値である75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。	・当センター以外での受診状況を把握し、未受診者への受診勧奨を行うことにより、受診率を向上させる。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	休日検診の受診者数		人	10	951	999	[1,150]	1,150	10	1,150	1,191	年間実施回数24回の中での実現可能性を考え、R4年度見込値と同程度である中期経営計画の目標値の1,150人を目指す。	・土曜日の子宮がん・乳がん検診の実施、オプション検査の拡大について、市町村等へのPRを積極的に行う。 ・女性医師の確保に努める。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の収益額		百万円	10	308	323	[353]	355	10	355	361	検診料金の改定や新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるためR4年度見込値と同程度である中期経営計画R5目標値を目指す。	・検診料金の改定や人間ドック健診等収益率の高い総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の受診者増加を効果的な広報を実施することにより取り収益の安定につなげる。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	5	106	122	[×114]	128	5	128	131	検診料金の改定や新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるため中期経営計画R5目標値を目指す。	・大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行う。 ・検診料金の改定や胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図り収益の安定につなげる。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	10	△ 51	△ 33	[×△35]	↓△43	10	△ 43	0	検診料金の改定や新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるため中期経営計画R5目標値を目指す。	・検診料金の改定や新たな視点での増収を図るため、受診枠の拡大や受診受付人数を工夫するとともに、土曜検診の充実などを図り、安全安心の確保とともに、収益の確保へ向けて最大の努力を図り、経営の改善につなげる。 ・収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増、休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診者数の拡大、車検診(セット検診)の効率的運営を図る。

【凡例】

- ・☆はR5年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

### CS調査の実施概要

#### ○令和4年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける車検診の満足度	検診会場で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・車検診受診者	369人	令和4年12月8日（木）～ 令和4年12月15日（水）

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p><b>結果の概要</b></p> <p>受診者の年齢構成は高齢化していたものが、壮年の方の割合が増加しており、新型コロナウイルスの影響による過去の受診控えから、壮年の方のがん検診に対するニーズが変化していると見られる。同様に性別では男性の受診者の比率が増加していることも、同様の変化と見ている。「検診スタッフの言動・態度」以降、受診者の方の評価は満足など好意的な評価が、過去同様に高い水準を維持する。</p> <p>今後も高水準な満足度を維持するため、インシデント情報や受診者の方のご意見などの確な対応をすることで、より一層の改革・改善を実施していく。</p> <p>○年齢 50歳代、60歳代、70歳代以上の順に多く、全体の75.1%を占める 40歳代50歳代の壮年の受診者の増加が見受けられる</p> <p>○性別 女性が76.0%を占める 令和2年度より男性の比率が増加した</p> <p>○受診した理由〔複数回答〕 毎年受診しているが最多で、受診者全体の48.7%を占める</p> <p>○健診（検診）スタッフの言動・態度 「満足」は91.8%、「ほぼ満足」5.7%で併せて97.5%を占め、毎回高い評価となっている。</p> <p>○次回も当センターを受診したいと思うか 93.2%の受診者が「次回も当センターを受診したい」と回答</p>	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <p>・アンケート結果を職員に周知し、各所属において更なる改善点を協議し、改善できるものについては、直ちに対応する。</p> <p>（今後実施予定の取組）</p> <p>個別に記述された意見等を分析し、改善点に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。</p>

#### ○令和5年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健（検）診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・施設検診受診者	500人	令和5年10月（予定）

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府保健医療財団

[1]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
施設におけるがん検診の収益額	百万円	122	[114]	△8

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	実質的な施設がん検診者数が減少したこと			がん単独検診やオプション検診の件数が伸びなかったため、収益が目標に達しなかった。 当初目標件数 44,400件（施設平均単価2,765円） 見込件数 40,961件（施設平均単価2,800円）					<ul style="list-style-type: none"> <li>・8%の料金改定で各健康保健組合等と調整を進めているので、収益確保につなげる。</li> <li>・受診勧奨や受付時の複数受診の働きかけなどを実施する。</li> </ul>	
	関連項目名	収益額	単位	百万円	R4当初想定値	122	R4実績値	114		
②										
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値			
③										
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値			

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

[2]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額	百万円	△ 33	〔△35〕	△ 2

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	エネルギー価格高騰による光熱水費の増			・光熱水費が当初13百万円と見込んでいたが、エネルギー価格の高騰で当初より7百万円増加した。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格高騰に対応できるよう、料金改定により収益を確保する。</li> <li>・電力供給の契約先を変更する。</li> </ul>
	関連項目名	光熱水費	単位	百万円	R4当初想定値	13	R4実績値	20	
②	古い医療機器の故障による修繕費の増			・医療機器が古くなり修理費用がかさみ当初の予定より3百万円増加した。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・予期せぬ修理に対応できるよう、料金改定により収益を確保する。</li> </ul>
	関連項目名	修繕費	単位	百万円	R4当初想定値	11	R4実績値	14	
③									
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
総合健診の受診者数	人	[15,200]	15,200

<p><b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b></p>	<p>令和4年度は目標値を大幅に上回ったが、新型コロナウイルスの影響が落ち着いたことによる一時的な反動によるものかどうか見極めが難しいため、令和5年度は4年度見込値を確保することを目標とする。</p>
------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
検診車によるセット検診 (乳がん・子宮がん)の 実施回数	回	[97]	97

<p><b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b></p>	<p>市町村に次年度の受診希望調査を行い、実施回数、実施時期を調整しているが、検診車の台数が限られる中、現状では検診日を増加させることは困難であり、現状の回数を維持する目標とする。</p> <p>しかしながら、セット検診はより効率性を高めることで増加をめざしており、令和6年度以降は1回ずつ増加させる予定。</p>
------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
大腸がん（職域）検診の精検受診率 （精検受診者数/要精検者数）	%	[75.0]	75.0

〔4〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
休日検診の受診者数	人	[1,150]	1,150

マイナス  
（現状維持）  
目標の考え方

コロナの影響で、受診控えも予想されるが、精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。

マイナス  
（現状維持）  
目標の考え方

平日の検診枠を確保するため、乳・子宮の女性検診については休日検診に振替えるよう努力した結果、令和4年度は中期経営計画初年度で計画値を上回った。令和5年度は年間実施回数24回の中での実現可能性を考え、4年度見込値を確保することを目標とする。

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
正味財産増減額	百万円	[△35]	△43

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和5年4月より循環器病予防部門が地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所に移転することに伴い、中期経営計画の改定を行い、計画内で定めた目標値を設定している。</p>
-----------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

〔6〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
/			

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	/		
-----------------------------------	---	--	--